

『しつぱいにかんぱい』を読んで

弘前市立城西小学校

坂 本 あおい

このお話に出てくる加奈は、運動会のリレーのアンカーに選ばれましたが、加奈がしつぱいをしてしまい、チームが失敗になりました。加奈はとても落ちこんで、だれとも話さなくなってしまいました。

加奈はとてもわたしにやっているなあとと思いました。

私は今、ミニバスケットボールクラブに入つていて、シュートがいつもより決まらなかつたり、ディフェンスがうまくできない時など、試合中でも泣いてしまい、チームにめいわくをかけてしまします。なぜ泣いてしまうのかなあとこうかいて、思い出すのもいやになります。

加奈が落ちこんでいる時、加奈のおじいちゃんから、「加奈の好きなハランズしを食べよう。」と電話がありました。親せきがたくさん集まつていきました。ぐうぜんに、みんなでしつぱい話をすることになりました。しんせきのみんながいろいろなしつぱい話をしていくと、加奈はじょじょに元気なくなつてしましました。

をとりもどしていきました。最後には「しつぱいにかんぱいだ！」と言つてみんなでかんぱいしました。

その時加奈が、「わたしはね、とんでもないしつぱいをして、みんなにめいわくをかけちゃつたの。わたしのしつぱいも笑つて話せる日がくるかしら。」と言いました。

私はこの言葉がとても心に残りました。そして、しつぱいつて不思議だなあとと思いました。しつぱいした時はくやしかつたり、悲しかつたりするけど、後から「次に生かそう」とか、「次は同じしつぱいをしないようにしよう」と思うからです。しつぱいはいやなことだけど大切なものもあると思いました。

今度のバスケの試合の時には、もししつぱいしても泣かないようにしてがんばりたいです。

みんなのしつぱいに、加奈のしつぱいに、そして、私のしつぱいにかんぱいだ！